講演「超高齢社会の民生委員の役割」の主な内容

①介護保険の功罪－「福祉はお上がやってくれる。私は趣味を楽しめばいい」
　民生委員百年の功罪－「地元の福祉は民生委員がやってくれる」？

②日本人のおつき合いの常識が助け合いを阻んでいた。
　本気で助けたければ、詮索しよう、お節介しよう、こじあけよう。

③住民は５０世帯毎に、世話焼きさんたちでご近所福祉を実践していた。
　ならば民生委員は、ご近所のバックアップ役に下がろう。

④住民の助け合いは見えにくいが、支え合いマップを作ると見えてくる。
　５０世帯ごとに住民と一緒に作って、よきご近所への課題を抽出しよう。

⑤２５０世帯を担当する人は、５つの「ご近所」を抱えていると考える。
　各ご近所が主体的に福祉に取り組むよう応援。これで民生委員は楽になる。

⑥ご近所力を育てるためにも、難題を安易に関係機関へつなげない。
　「私も応援するから、この人を皆さんの手で助けてあげましょうよ」。

⑦日本人の７２％は「頼まれたら助ける」のに、「助けて！」と言える人は３～５％。
　意外や、助け合いへの近道は、皆が「助けて！」と声を上げることだった。

⑧共生社会への新しい課題－担い手と受け手が協力して作る福祉へ。
　まずは当事者を助けられ上手さんに育てよう。担い手を上手に活用できる腕を。

⑨孤独死を防ぐには、まず高齢者自身が自分の命を守る努力をすることから。
　たとえばプライバシーよりも命を守ることを優先し、自分をオープンに。

⑩助け合いのまちづくりへ、民生委員はネットワーカー（結び屋）に。
　となると「守秘義務」を守るだけでは務まらない。情報開示のコツを体得しよう。